

緑化だより

No.178 令和 3年 12月号



サザンカ “乙女”

- 季節の花(むろのき(ネズ))
- 昆虫の話(12月のチョウ)
- 小さな世界こけ
(ホソウリゴケとホソハリガネゴケ)
- 研修会のご案内
- お知らせ・ご案内
- 展示会

ryokka 緑化センターの本

広島県緑化センター・広島県立広島緑化植物公園

〒732-0036 広島市東区福田町 10166-2

TEL 082-899-2811

FAX 082-899-2843

URL <https://ryokka-c.jp>



季節の花

むろのき(ネズ)

「我妹子(わぎもこ)が 見し鞆(とも)の浦の むろの木は
常世(とこよ)にあれど 見し人ぞなき」
大伴旅人(おおとものたびと)万葉集 卷3:446

これを訳しますと

(私の妻がかつて見た鞆の浦の海岸の岩に生えているむろの木は、いつでも変わらずここにあるが、ああ、あの時一緒に見た妻は、今はもうこの世にはいない。)

大伴旅人は太宰府に赴任して間もなく妻がなくなり、天平2年(730年)約2年の任務を終えて、12月の寒い冬に帰京を迎えますが、一緒に帰る妻は亡くなり、都に帰っても妻がいない悲しみを歌っています。

「鞆の浦」は広島県福山市鞆町の海岸で、「むろの木」は霊木として信仰されていました。鞆町には「むろの木」というお菓子もあります。

むろのき(古名)の和名はネズですが、別名ネズミサシとも言われ、中国名は杜松(としよう)です。

ヒノキ科(スギ科に含める説もある)ビャクシン属の針葉樹で雌雄異株です。雄花は4月頃に黄緑色の花が咲き、雌花は目立ちません。球果は直径0.8~1cmで、はじめ緑色、熟すと紫黒色になります。本州(岩手県以南)・四国・九州の山地に分布し、瀬戸内海沿岸など乾燥地に多く、朝鮮半島や中国大陸にも自生しています。



ネズの葉

むろの木の「むろ」は 実室(みむろ)で、実が多くつく木の意味です。ネズミサシは針状の葉をネズミの出没する穴に置いたことに由来します。乾燥した実は生薬となります。ヨーロッパに分布する近縁種の西洋ネズ(英名 ジュニパー)はお酒のジンの香り付けに使用され、ネズはその代用として用いられます。

廿日市市の醸造元で広島県産のネズを使い商品化した酒は、ジンのような風味が楽しまれています。(上村)



ネズの実

昆虫の話

12月のチョウ

チョウの中には、成虫で冬越しする種が少なからずいますが、今月はその中でシジミチョウの仲間3種を紹介します。

まず、**ムラサキシジミ**です。カシ類各種を食餌とし、広島県内の広範囲に生息します。人家の庭の生垣として仕立てられたアラカシに発生することもある、比較的身近なチョウです。6月から10月にかけて年4回程度発生し、秋に羽化する個体があるまま冬を越します。冬季でも天気の良い日は日当たりの良い場所で翅を開いて日光浴し、その際、翅表の青藍色の斑紋がキラキラと輝き、目を奪われます。

次に、**ムラサキツバメ**です。本種はシイ・カシ類の中でもマテバシイとシリブカガシを植樹とするので、生息域はかなり局所的ですが、近年、町中の街路樹や公園にマテバシイが植栽されることが多くなり、分布が拡大しています。本種も6月頃から年3回程度発生し、晩秋に羽化する個体があるまま冬を越します。冬越しの際、マテバシイの葉上などに集まって、時々、十数頭程度の大集団を形成することがあります。



左上:ムラサキツバメ 雄 右上:ムラサキツバメ 雌
 左下:ムラサキキンシ 雌 右下:黒まだらソテツジメ 雄

最後に、**クロマダラソテツジメ**です。本種はソテツに寄生し、もともとは国外の亜熱帯地域に生息するチョウでしたが、2007年頃から国内でも西日本を中心に分布を広げ、広島県では2008年に初めて確認されました。筆者がこのチョウと初めて出会ったのは2009年12月のかなり寒い日のことで、自宅のベランダの網戸にへばりついて身動きひとつできない状態でした。捕獲して室内に入れると、少しずつ歩きまわる状態になりましたが、飛ぶことはありませんでした。当時、本種が広島県内で成虫のまま冬を越すのは無理だろうと思いましたが、最近、急速に分布を拡大していることから、既に多くの場所で冬を越して、定着しているものと考えられます。チョウの仲間も、今後は、地球温暖化の影響で亜熱帯性の種が国内にどんどんと入り込み、寄生できる植物さえあれば定着するのではないかと考えられます。(相良)

小さな世界 こけ

ホソウリゴケとホソハリガネゴケ

12月になると、園芸店やホームセンターの店先に、正月用の寄せ植えに使用する松、竹、梅、福寿草などと共に、表面に敷くコケが並べられています。どんなコケか調べてみると、ホソウリゴケやホソハリガネゴケが多い様です。どちらのコケも日当たりや乾燥に強いので、鉢植えの表面を飾るのに適しています。これらのコケは、街の公園や道路でも見られ、やや湿り気のあるアスファルトやコンクリートの上などに、こんもりと盛り上がった群落をつくっています。



ホソウリゴケ



ホソウリゴケの葉の拡大

よく似たコケですが違いを比べてみましょう。

ホソウリゴケは、茎の長さ5mm以下と短く、葉は乾燥しても縮れず茎に密着し、うろこのように見えます。

葉の長さ1mmほどで、葉の形は卵形～長卵形で先は尖り、中肋は葉先から短く出ている。胞子体は褐色で、胞子のうはうり形でまっすぐ立ちます。



ホソハリガネゴケ

ホソハリガネゴケは、茎の高さは1cmくらいで、立ち上がります。葉の長さ2～2.5mm、形はやや細長い卵形で、葉の中肋は葉の先から長く伸びています。

胞子体の柄は赤身を帯び、胞子のうは洋なし形で垂れ下がります。(山根)



ホソハリガネゴケの胞子体

研修会のご案内

- 12月 5日(日) 『クリスマスリース作り』 10:00～12:00 学習室 集合
講師：森林インストラクター 長井 稔
※ 要予約 (キャンセル待ち)、材料費 800 円
- 12月 10日(金) 第5回 ひろしま遊学の森「四季の移ろい」写真コンテスト 公開審査 10:00～12:00 学習室 集合
講師：二科会会員 宗岡 泰昭
※ 自由参加、無料
- 12月 12日(日) 『粘土でサンタさんを作ろう』 10:00～12:00 学習室 集合
講師：デコクレイクラフトアカデミー上級講師 モーモーアート代表 小田 みやこ
※ 要予約 (先着 25 名)、材料費 1,000 円、小学生以上対象
- 12月 16日(木) 『常緑広葉樹の見分け方』 10:00～12:00 学習室 集合
講師：森林植物研究家 埴田 宏
※ 自由参加、無料、ルーペ持参
- 12月 17日(金) 『立石山トレッキング』 10:00～12:00 レストハウス前 集合
講師：緑化センター職員
※ 要予約 (先着 15 名)、無料、雨具持参、雨天中止

新型コロナウイルス感染症の感染拡大を抑制するため、参加者はマスク着用、手・指の除菌、密集・密接を避けるようご注意ください。また状況によっては、研修内容の変更や中止となる可能性があります。ホームページ、お電話等で最新の情報をご確認ください。

☆お知らせ・ご案内☆♪

- ・ 12月の休園日は6日、13日、20日、27日の月曜日、及び、年末・年始の12月29日(水)～1月3日(月)です。
- ・ 合格祈願「やまこうばし」のお守り
管理事務所にて1人1枚、無料

◎ 展示会

場所:レストハウス
(ガラスケース展示)

モーモーアート クレイ作品展

～ 1月15日(土)

(パネル展示)

第5回 ひろしま遊学の森

「四季の移ろい」写真コンテスト展

12月18日(土)～1月23日(日)

場所:学習展示館

第10回 ひろしま遊学の森

こども写生大会作品展

～12月10日(金)



合格祈願「やまこうばし」のお守り